

講演会要旨

演題：モルディブの観光と言語景観

講演者：河野夏美氏

(元 JAL スカイグラウンドスタッフ, Maldives Travel Factory ツアーオペレータ)

開催日：2020 年 11 月 3 日 (火)

会場：Zoom

この講演会は、共同研究グループの「色彩と文化Ⅳ：言語景観と外国語教育」の研究活動の一環として開催したものである。研究会を公開したところ、研究会のメンバー以外に 20 人以上の学生が参加し、斬新な質問も多く、コロナ禍の中、非常に有意義な講演会となった。

内容としては、次の 3 点にまとめられる。

- ①モルディブの言語景観は主にディベヒ語（写真 1・写真 2 の○印のところ）と英語のわりとシンプルな形。外国人労働者が相当いるが言語景観に関してはまだまだ現地語のディベヒ語＋英語がメジャー。
- ②コロナ禍で観光大国のモルディブは大打撃を受けた。しかし 7 月 15 日から再オープンし、ヨーロッパやアラブのお客さんを中心に少しずつ観光客が増加傾向にある。
- ③海外で働くことは大変なこともあるけど楽しいことである。

海外とはいえ、仕事は対日本人のお客さん、それゆえに大変なこともあるが「ありがとう」「楽しかった」「また絶対来ます！」等のお客さんの言葉が励みになる。



写真 1 デイベヒ語 1

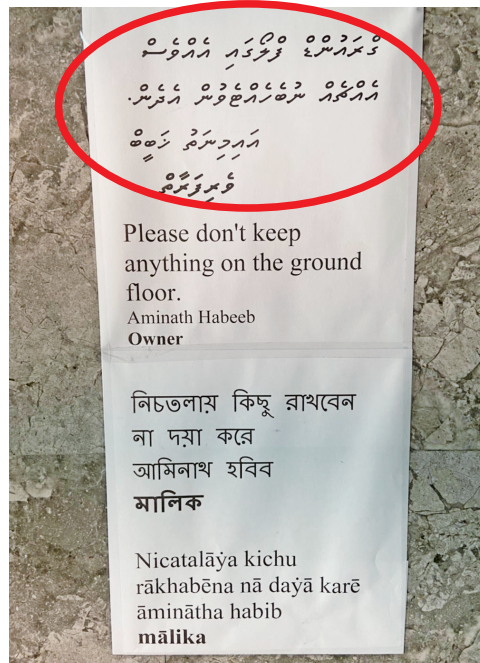


写真 2 デイベヒ語 2

(文責 尹亭仁)